

会 議 記 録 (1)

会議名称	北本市第三次障害者福祉計画策定委員会 第2回委員会
開会及び閉会日時	平成28年10月14日(金)午後1時30分(開会)～午後2時50分(閉会)
開催場所	委員会室1(庁舎3階)
議長氏名	加藤潤一委員長
出席委員(者)氏名	加藤潤一委員長、鈴木(岩崎雄一委員代理)、長島幸枝委員、関根秀行委員、甲斐田よし子委員、長岩透委員、平尾良雄委員、長谷川由美子委員、関根孝明委員
欠席委員(者)氏名	木下大生副委員長、横田清委員、岡野貞子委員
説明者の職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖
事務局職員職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖 福祉部障がい福祉課相談支援担当主幹 春山政寛
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) アンケート修正結果と実施について(資料2・アンケート) (2) 計画の基本方針等について(資料1) (3) 今後の委員会と幹事会の協議方針について(資料3) (4) その他 次回(第3回策定委員会)の日程について 8 閉 会
配布資料	・ 委員会次第 ・ 策定委員会委員名簿 ・ 資料1 アンケートおよび計画の基本理念等について ・ 資料2 第1回策定委員会委員からの意見等への対応(案)【事務局改訂版】、アンケート新旧対照表、アンケート変更点 ・ 資料3 今後のスケジュール(案) ・ 別添 障害者手帳取得者数(平成27年度末現在)、サービス利用状況 ・ 委員長私案 ・ 対比表(委員長私案、I R案) <当日配布> ・ 委員長私案補足

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会 (一略) 配布資料について確認
委員長	2 あいさつ 第2回策定委員会となる。アンケートの調整をしつつ計画策定を進めていければと思う。 (会議の公開について →異議なし)
	3 議事 (1) アンケート修正結果と実施について (資料2・アンケート)
委員長	第1回策定委員会で委員長と副委員長と調整となったが、実施の判断ができなかったので改めて今回あらためて確認いただきたい。
事務局	(資料1、資料2を説明。) ・ アンケートの主旨を確認 ・ ルビを付けたことを説明 ・ 新旧対照表について ・ 家族票の説明
委員長	第1回策定委員会を思い出してもらい、率直な意見をいただきたい。
委員A	変更点があったために前回の予定より日程が3か月遅れたということか。
事務局	こちらの不手際があり3か月遅れている。今後期間を圧縮して進めていきたい。
委員A	委員に連絡もなかったまま、今後圧縮して進めていくということか。
事務局	連絡なしはお詫びする。資料3で今後の日程をあらためてお示しいたい。
委員B	親の意見を聞く票が入ってよかった。集計によって困っていることなどがわかってよい。

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
委員C	知的障がい者をもつ親は子どもの代弁者である。うまく代弁できているか、子どもがそう考えているか疑問に思うこともある。アンケートはいい内容になっている。
委員D	内容はよくなっている。「満足していない」場合の自由意見が大切。どう改善していくのかにかかっている。日程圧縮がやや不安。
委員E	予定より3か月遅れていることを担当部長としてお詫びしたい。内容については前回意見を反映してこのように進めさせていければと思う。
委員F	第1回策定委員会が終わって、議事録をいただき、アンケートの修正が送られてきたが、延び延びになって疑問に思っていた。見直されたアンケートはわかりやすくなったと思う。
委員G	丁寧になっていると聞いている。よいと思う。
委員長	この内容でよいか、挙手をお願いしたい。 (了承)
委員長	1回目での各委員の思いが反映されるまで時間がかかってしまった。新旧対照表は昨日お願いし今日に間に合うよう、事務局が一生懸命準備してくれたことをお知らせしておく。 (2) 計画の基本方針等について(資料1)
委員長	(事前送付資料の委員長私案説明) ソーシャルインクルージョンを進めることが大切。 基本理念「支えあい、ともに暮らしあうまち 北本の実現」、方針の作成4点、分野の設定6分野の説明。 (当日配布の追加資料の説明) 第2次計画を細かく見ると、行政制度の説明・事業についてあいまいな記述が多く思える。今回は1分野ごとに目標をきちんと定め、市民や当事者が主体的に関われる計画としていきたい。
事務局	(IR案との対比表説明)
委員長	私案2枚めで書式を提案した。

会 議 記 録 (4)

発 言 者	発 言 内 容
委員F	I R案の意味はどういったことか。委員長私案にある、基本理念を支える方針の作成で、(2) 制度の壁について、具体的に伺いたい。
事務局	第1回で提示した柱(I R案はインテージリサーチ作成)。対比表の左側は委員長私案。対応していることを示している。
委員長	制度の壁とは、高齢者福祉の介護保険、障害者総合支援法での使える・使えないがあったり、障がいの程度によって使える・使えないであったり。子どもであれば教育委員会等、制度や組織の壁。そういったものを越えて支えられる仕組みが必要と考えている。
委員B	精神障がいの立場からの意見として、基本理念か方針かわからないが、アウトリーチがないと本当の支援ができないのではないかと考えている。住んでいるところにいて、その人がどういう生活をしているかを見ないと支援できない。アウトリーチの理念を入れてほしい。 障がいによって制度が違う。例えば医療費。精神科通院は1割負担だが、ほか歯科通院などは3割負担。障害者年金ぐらいしか収入がないので親も負担している。また、JR料金・高速料金も精神障がい者は違う。制度の壁に配慮してほしい。 「まちづくり」の理念では、市民への啓蒙は常にしていく必要がある。精神保健ボランティアが当事者や家族を支援してくれているが、ボランティアも高齢化しており、新たな養成が必要だと思う。ボランティアを通じて、市民のこころのバリアフリーも広がるので大きな役割を担っている。
委員長	方針(1)について、支援が行き届かない人がいる前提で、アウトリーチとのことばは使わなかったが考え方は含んだつもりである。表現を精査したい。障がいの種別や立場により捉え方や情報量の違いがある。6分野で目標を設定し、重点的な取組をかけた、計画策定へと漏れることなく進めることができるかと思う。 第3回策定委員会では分野についてなど事前に局に意見を提出いただき、事前にとりまとめて議論資料としたい。いかがか。 行政がすべてやるではなく、各主体(市民、当事者団体)の役割があると思う。すべてにおいて主体性をもってという形にしていければ。
委員E	制度の壁はいろいろな解釈があると思う。介護保険制度の改正などの動きがあり、制度的不整合な面もあるが市としての対応は難しい。

会 議 記 録 (5)

発 言 者	発 言 内 容
委員長	障害者総合支援法と介護保険でいうと介護保険優先が原則であり、悩ましいがそのように対応しないとならない。課によって対応がばらばらな点など、当事者中心に支援チームを組むとか、それは幹事会も持つので庁内で進めていきたい。いろいろな意見により整理していきたい。 例えば数年前に社会福祉協議会で「支え合いのしくみづくり事業」があったがインフォーマルな部分が大切。制度をうまく使っていく中で、足りない部分でいろいろな連携が進んでいくとよい。
委員長	基本理念・基本方針について、こうした枠組みで検討してよいなら挙手をお願いする。 (了承)
委員A	第二次計画の策定には関与していなかった。第二次計画の達成度がわかる資料はないのか。
事務局	作成中。早急に対応する。 (3) 今後の委員会と幹事会の協議方針について(資料3)
事務局	(資料3 今後のスケジュール(案)説明) ・第2次計画の進捗評価を進める。 ・幹事会を経て第3回委員会を11月～12月上旬。 ・アンケートはこの日程よりできれば前倒ししたい。
委員長	10月4日に事務局と打合せをしたが補足したい。第1回幹事会で第二次計画を評価のうえ、目標設定の構成検討、第3回策定委員会では具体的な取り組みなどある程度集計して示したい。
事務局	現在、庁内で進捗状況の評価を作成中。今月中にはまとめたい。
委員E	現計画の評価はまとまった時点で委員へ郵送したい。できた資料からできるだけ早くお送りしたい。ご了解いただきたい。
委員長	第3回策定委員会前にまとめて送っていただいたほうがよい。11月中旬に第3回策定委員会となると、来週半ばには委員に資料を発送してほしい。

会 議 記 録 (6)

発 言 者	発 言 内 容
事務局	来週いっぱいはみていただき、10月24日の週には発送。
委員長	できれば10月21日に発送して、10月24日着でお願いしたい。
	4 その他
委員長	・ 次回の日程について 11月25日（金）14時～
委員D	資料には通し番号をお願いしたい。
事務局	そのようにする。
委員F	アンケート対象は第1回策定委員会のとおりか。
事務局	前回の委員会の御意見を踏まえ、身体障がい者については障害種別で同じような割合で抽出している。
	5 閉会
議事のでん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。 H28年 11月 25日 委員長(委員長) 加藤 潤一	